

# 大崎市（岩出山地域）



岩出山地域には、今なお大蔵流謡曲おおくらりゅうようきょくが伝承されています。江戸時代、能は武士の教養として盛んに演じられてきました。岩出山でも伊達氏によって能が保護され、祝儀の際には「御能おのう」が催されていました。湯村半兵衛ゆむらはんべえは岩出山伊達氏の乱舞師らんぶし（仕舞師しまいし）として演じる一方、家臣にも指導していたので、岩出山における大蔵流の祖といわれています。明治維新後は半兵衛とその二男幸五郎こうごろうや能を得意とする旧武士たちが、一般の人々にも能や謡曲を教え普及しました。

能のなかの謡曲は演奏時間がながく、種類も豊富でした。一方、謡曲のさわりの一節だけを囃子はやしなしで謡う形を小謡こうたいと呼んでいました。小謡の形をとった謡曲は多くの人々に広まり、結婚式、年越し、正月の儀式など、いろいろな場面に合わせて謡われ、暮らしの節目には欠くことのできないものでした。

武士のたしなみであった謡曲は、能の形を失い、伝統芸能としての謡曲の意味も性格を変えて、庶民の間に広がりながら、小謡のみの大蔵流が残りました。

大蔵流謡曲保存会は昭和47年3月30日に市指定無形文化財となっています。